

新川神社
社報



鷹乃羽

平成二十四年十二月十日発行
発行所 新川神社社務所
編集者 禰宜 船木信孝

ご挨拶

新川神社 宮司 船木信光

先ず持つて、来る平成二十八年に新庄御鎮座四百年を迎えるに当たり、昨年十一月に記念事業奉賛会を結成され、多くの方々のご奉仕により多大なる御奉賛を賜りましたこと、篤く御礼申し上げます。今は唯々諸事安泰に進捗するように御神前に額ずき祈る日々でございます。

また、昨年より今日に至るまで東日本震災にて被災されましたすべてのの方々にお悔やみ申し上げます。現地の凄惨たる状況に触れる度に、四百年前に我々の祖先が常願寺川の洪水で被災され、復興もままならぬ翌年にこの地を新しい宮処と定め、町の再興に尽力された当時の様子は如何なるものかと想い巡らす日々であります。

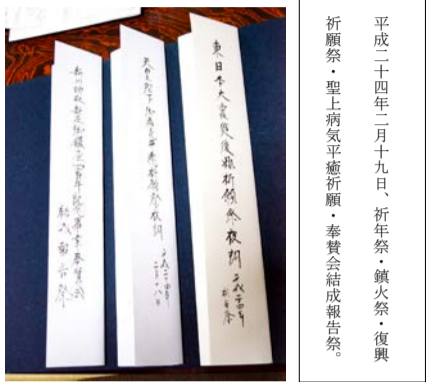
今日新庄に住む私たちは、先人が並々ならぬ不屈の精神をもって復興された土地の上に生まれながらに育ち、先人の御魂を忘れず、今現在の平和な郷土に感謝すると共に後世に至るまで伝承して行きたいと思っております。

古くから新庄に住まわれるの方々の中にも、実は四百年前に被災して現在地に移住してきた方々も多くいらっしゃるのではないかと思います。かく言う私も神職家の祖先も、お宮の御遷宮にお供して今日の住処にきたのではなからうかと思っております。

従いまして代々新庄在住の方も、近年新庄に御縁があられました方々も、御神縁と申しましうか、それぞれに摩訶不思議な導きがあつて今現在、同じ新庄で新川神社の神様が御護りされる土地に住む「地縁」の上に有るわけでございます。

古来日本人は「鎮守神・産土神・氏神」の総称である氏神神社のおまもりされる土地に住む人達の事を「氏子」と呼んで、新しく引越してこられた方や、婿・嫁入りされた方には「氏子入り」といって、地元のお宮にお参りすることで共同体の仲間入りとされました。氏神はその土地に災いが無きように住む人々を加護する神様であるからです。

年間を通じてお祭りの参列や、境内の清掃奉仕など神様にお仕えするお役目を果たされながらお宮を維持し、年に一度の大祭には御神輿を担ぎ、賑やかに盛大に街中をくまなく練り廻して、「神と人」とが交わる事により仲間意識を育て、老若男女、新しい人も古い人も交わりあつて大いに楽しむ、という考え方が「まつり」であつて、我々日本人のふるさとづくりに、国づくりの根底にあるものでは無からうかと思つております。



平成二十四年二月十九日、祈年祭・鎮火祭・復興祈願祭・聖上病氣平癒祈願・奉賛会結成報告祭

諸事困窮を極める昨今の世情にてありますが、御縁のある皆様方と共に、由緒ある郷土・新庄と新川神社をよりよい姿で後世に伝え、継承して行きたいと思つて、斯くなる上は諸般事情をお察し戴きまして何卒旧に倍する御芳情を引き続き賜りますように切にお願い申し上げます。

夏越の大祓式齋行

六月三十日午後五時より、茅の輪神事を含めた大祓式を斎行致しました。古式に倣い、人形に罪穢れを移し、茅の輪を三回くぐつて戴き、無病息災を祈ります。ご家族連れのお参りが多かったため、百名近くのご参列を戴きまして盛大に、そして賑やかな神事となりました。



水無月の夏
越の祓へす
る人は千歳
の命延ぶと
云ふなり



おみやげの茅の輪守り



お祓いの後、無病息災を祈ります。大祓詞の奏上。祓いの儀式が始まります。

「第一回大人のためのやさしい神社のおはなしの会」開催



第一講 古事記の素読です。みなさん、上手。



第二講 とやま歴史的環境づくり研究会代表:高岡徹先生。

本年九月二十九日土曜日午後二時～四時三十分、神社主催の一般対象の神道・歴史講話会を初めて開催いたしました。第一講目は禰宜・船木信孝が、「みんなで声を出して読む、古事記」～古事記に登場する新川神社の神様たち～と題して、参加の皆さんと一緒に、古事記に著されている御祭神の部分の素読を紹介しました。第二講目は「新庄の城と城主たち」～城の興り・歴代城主・上杉謙信と新庄・城を巡る戦い～と題し、富山では城郭に関しては第一人者であります、新庄在住の高岡徹氏から歴代新庄城主のお話を拝聴いたし、歴代城主が崇敬した尊い社である事、深遠な歴史と、現代にまで繋がる地理的な要素としての伝統を有する町であることが良くわかりました。

古事記撰上一三〇〇年記念

「古事記に親しむ」

素読会 開講



「古事記」には文字のない時代から日本人が語り継いできた言葉がそのまま書かれています。古事記を素読すると、まさに悠久の時空を超えて私たち日本人の祖先の心に触れることができます。

本年は日本最古の書である古事記が選定されて一三〇〇年にあたり、堅苦しい勉強会ではなく、先ずは大きな声を出して読むことにより、古代日本人の言葉の響きと言葉に秘められた古代人のエネルギーを感じ取つて戴く事を主旨として三月より開講いたしました。御婦人方より「夜は夕食の準備があるので昼間にも開催できないか？」の要望を受け、四月から昼の部も開催。中巻コースは夜の部参加者八名、上巻コースは夜の部十一名、昼の部十一名。月三回に分けて開催中。現在総員三十名のご参加を戴いております。

伝統文化継承道場

たかのはねががくかい

鷹乃羽雅楽会開講



神社として社会に対して何か貢献する、奉仕するには何をすれば良いか考えましたときに、我々が微力ながら出来る事として「雅楽に親しむ場」と「機会」を提供することから先ずは初めて見ようと思いい立ち、この度新川神社の御神紋であります「違い鷹の羽」から「鷹乃羽雅楽会」と名付けて発足させました。

呉西地区には雅楽会がいくつもあります。呉東地区ではあまり聞きません。今まで有りそうで無かった雅楽会を今回初めて富山市

で発足させるということで新聞の紙面でも紹介もされるやいなやその反響は大きく、参加者は近隣の富山市内からは元より、東は黒部から西は高岡・伏木に至るまで県下から総員四十五名が参加されています。毎月一回、日曜日の午後七時から九時まで、社務所、公民館、お宮の拝殿を練習場所として取り組んでいます。

講師は宮内庁楽師から指導を受けた富山県神社庁雅楽部の神職として龍笛に富山県神社庁雅楽講師・高瀬神社権宮司 藤井秀嗣氏、箏篳(ひちりき)に日枝神社権禰宜 船木信忠、鳳笙は富山県神社庁雅楽講師・当社 船木信孝禰宜が務めます。龍笛と箏篳の参加者が多いので急遽、稻荷町鎮座・稻荷神社禰宜 山田修一氏、富山縣護國神社権禰宜 梅野高広氏を助手としてお手伝い戴いております。大人数のため、現在の社務所、船木家の座敷では対応できず、急遽練習場所として新庄第一公民館を年間通じて使用予約を致しました。当面の目標と致しましては一年後の十月十九日の秋祭の夜に、御神前にて奉納演奏をしていただければと思います。

古今東西、すべての芸術は神に捧げられるものとして始まり、雅楽も神事において神様と人とが歌舞を通じて一体となり、共に楽しむ境地である「神人合一(じんになんごういつ)」を目指して傳承されてきました。来る平成二十八年の新庄御鎮座四百年記念大祭の御神前に、雅やかな音色が流れる日を想いながら、皆さんと楽しみながら取り組んでいきたいと思ひます。



鳳笙：小学生を含む8名。拝殿にて。



箏篳：小中学生を含む13名。社務所にて。



一番人気の龍笛：22名。第一町内公民館。



除雪車導入



新川神社写真帳



消防団出初め式



本年初めて七夕飾りを設けました。



新川神社独自千歳飴袋 御祭神絵図



堀川ヒカルさん



金谷ふみやくん



山ざきあかねさん



受賞おめでとうございました

富山県神社庁主催「第三十四回お宮さんを描く写生大会」

金賞 新庄小学校五年 堀川ヒカルさん

金賞 新庄小学校三年 金谷ふみやくん

金賞 新庄小学校三年 山ざきあかねさん

「第二十八回小学生作文コンクール」 おまつりと私

富山県神社総代会 会長賞 新村奈津実さん「お宮さんと私のつながり」

※特別賞の新村さんには副賞で「伊勢神宮参拝旅行」にご招待されました。

写生会の参加作品のすべてと作文は新川神社ホームページ「小学生のみなさんへ」内の「新川神社美術館」「新川神社文庫」にて公開中です。